

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立唐桑幼稚園 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 988-0535

宮城県気仙沼市唐桑町馬場 143-1

E-mail [karakuwa-yo@kesenuma.miyagi.jp](mailto:kakuwa-yo@kesenuma.miyagi.jp)

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 13 名 女子 11 名 合計 24 名

幼児・児童・生徒の年齢 3 歳～ 5 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当園では、「唐桑が大好きな幼児！ー自分たちが住む唐桑の良さを知ろう！」という活動テーマの基、「唐桑の環境 (人・自然) にふれながら、様々な発見や体験を通して地域のよさに気づき、遊びや生活の中で大切にしていこうとする幼児の育成」を ESD 教育のねらいとした。また、ESD で身につけさせたい態度や力を「進んで参加する態度」「コミュニケーション能力」「他者と協力する態度」と捉え、具体的に、①唐桑の海の豊かさを感じる体験活動の設定、②「海の達人隊」(漁協職員や、さかなの駅職員) へのインタビュー、③体験後の振り返りの場の設定、④身近なもの (家庭で出た空き容器や地域の海で拾った貝殻等) を再利用できる環境の構成を柱とし、「地域の環境 (海・そこで働く人) とのかかわりや自然体験」「体験を基にした振り返り活動 (ごっこ遊び)」の活動を行った。

① 「地域の環境 (海・そこで働く人) とのかかわりや自然体験」に係わる活動ー馬場の浜遊びー (6/29・6/30)

年長児が唐桑小学校の 1・2 年生と園の近くの馬場の浜散策を行い、様々な発見や海の水の感触を楽しんだ。また、小学生と馬場の浜遊びを楽しんだ翌日、今度は年長児がリーダーとなり、全園児で馬場の浜遊びに出かけた。年長児は

小学生にしてもらったように年中・年少児に優しく教えてあげながら、海に足を入れたり、生き物に触れたりし、全身を使って海での遊びを楽しんだ。

②「体験を基にした振り返り活動（ごっこ遊び）」「身近なもの（家庭で出た空き容器や地域の海で拾った貝殻等）を再利用できる環境の構成」に係わる活動  
－馬場の浜ごっこ－（7/3～）

馬場の浜で見たり触れたりしたことを思い出しながら、“馬場の浜ごっこ”を行った。海で拾ってきた貝殻や身近にある空き容器を使い、保育室に馬場の浜を再現した。また、幼児の発見したことを写真の横に記載し“馬場の浜発見ずかん”を作った。

③「地域の環境（海・そこで働く人）とのかかわりや自然体験」②「“海の達人隊”（漁協職員や、さかなの駅職員）へのインタビュー」に係わる活動  
－唐桑漁協加工・出荷センター交流－（7/12）

馬場の浜での気づきをもとに唐桑漁協に行き、ホタテやウニ、ホヤなどの海の生き物に触れたり、出荷したりする様子を見たりした。また、そこで働く“海の達人”（漁協職員や漁師の人たち）にインタビューをし、漁協での仕事や唐桑の海には栄養（プランクトン）がたくさんあることでおいしいホタテやカキが育つことを教えてもらった。

④「体験を基にした振り返り活動（ごっこ遊び）」「身近なもの（家庭で出た空き容器や地域の海で拾った貝殻等）を再利用できる環境の構成」に係わる活動  
－唐幼漁協ごっこ－（7/13～）

漁協での体験や学んだことを生かし、漁協ごっこが展開された。年少児は魚になりきって表現遊びを楽しみ、年中児は養殖いかだやホタテを作って海を再現し、年長児は漁協の人になりきって出荷ごっこを楽しんだ。年中児が作ったホタテを年長児が出荷し、年少児や職員室に届けたり、届いたホタテでバーベキューごっこをしたりと、幼児それぞれが体験から得たことを遊びに生かし、異年齢でかかわりながらごっこ遊びが展開された。

⑤この後、「さかなの駅見学」や、その体験を基にした「さかなの駅ごっこ」も行った。（別紙資料添付）



①馬場の浜遊び



②馬場の浜ごっこ



③漁協交流



④漁協ごっこ

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他( 保育活動 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

幼稚園教育要領解説（フレーベル館）  
ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成（ひかりのくに株式会社）  
その他、海の生き物等が載っている図鑑等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

幼稚園指導要領の五つの領域を基に、これまで取り組んできている地域とのかかわりにおいてESD教育を通して身につけさせたい力や態度を明確にし、幼児の実態や課題に応じた活動を計画している。また、ESD教育の理念を基に、海洋教育、金銭教育（平成29年度・30年度指定）の視点からの取組も関連して行っており、地域での様々な体験や学びが幼児の中に蓄積されていくよう年間を通した活動計画を立てている。

地域との交流を行う際には、事前打ち合わせにおいて、活動のねらいや活動を通して育みたい内容を伝え、実践している。また、実践後には事後検討を行い、次の体験や活動に生かせるよう努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

地域に出向いての活動だけではなく、そこでの体験を振り返る場を設定し、幼児の気づきや学びを遊びに取り入れている。幼児は、再現遊びやごっこ遊びを通して、体験したことを思い出しながら友達と思いを伝えたり協力したりして、体験したことを遊びに生かしている。教師は、地域での体験が幼児の遊びや生活につながるよう、幼児の実態に合わせて環境を構成している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に、幼稚園教育について、地域を生かした活動や行事について等、職員への内部アンケートや保護者へのアンケートを行い、その結果を基に園評議委員からも意見を伺った。成果としては、「幼児の唐桑の海やそこで働く人に対する親しみの気持ちが高まった」「五感を使った体験からの気づきや学びが多かった」「友達との遊びやかかわりが深まった」等が挙げられた。課題としては、職員間での話し合いの時間の確保や、発達段階に応じた活動内容の再検討の必要性が挙げられた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

園からのお知らせや幼児の作品展示、写真掲示等を通して、幼児の様子や変容を保護者に知らせた。また、市内で行われた海洋教育リアスサミットでの活動報告会発表や、全国海洋教育サミットでのパネルディスカッション等を通し、取組について広く発信することができた。これらのことにより、園の取組についての理解を得ることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

唐桑漁協加工・出荷センターとの交流を通し、唐桑の海の豊かさにふれることができている。また、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの連携を通し、唐桑の船頭さんの出前授業(海の仕事について)を行ったり、職員の研修を行ったりすることができている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

年長児が唐桑小学校1・2年生との「馬場の浜散策」を通し、優しく接してもらいながら体験交流をする中で、様々な感動を共有したり、自分たちではわからないことを教えてもらったりすることで、親しみと憧れの気持ちを抱いている。また、そこでの体験や1・2年生にしてもらったことを園内の異年齢児とのかかわりに生かすことができている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

#### 幼児の変容

思いきり浜遊びをしたり、様々な生き物に触れたりしたことや、そこで育った海産物を食べたりする一連の活動を通して、唐桑の海への親しみの気持ちと関心が高まった。また、そこでの体験は幼児の五感を刺激し、幼児にとって地域の海がより身近なものになった。

体験を基に友達と思いを伝え合ったり協力したりして展開させたごっこ遊びを通して、海で働く人への憧れや親しみの気持ちを深めた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

#### ESDのねらい

唐桑の環境（人・自然）にふれながら、様々な発見や体験を通して地域よさに気づき、遊びや生活の中で唐桑の人やもの、自然を大切にしていこうとする幼児を育成する。

#### 活動計画

- ① “馬場の浜の海”で海の宝物探しをしよう！
  - ・ 浜遊びを楽しんだり、貝殻やシーグラス等を探したりする。
  - ・ 海で見つけたものを使い、親子で“海のキーホルダー”を製作する。
- ② “唐桑漁協出荷センター”に行ってみよう！
  - ・ 海の生き物とのふれ合いや、漁協の人へのインタビューをする。
  - ・ 唐桑の海で育ったワカメ汁を試食する。
- ③ “唐桑漁協販売会”に参加しよう！
  - ・ 唐桑漁協の販売会に親子で参加し、馬場の浜で見つけた貝殻等を使ったキーホルダーを買い物に来た方にプレゼントする。
- ④ 夏のお楽しみ会“唐桑の海の物”を食べてみよう！
  - ・ 夏のお楽しみ会（園行事）にて、保護者や地域の方々と一緒に、唐桑の海で育った海産物を食べる。
- ⑤ “からよう湾で遊ぼう！”
  - ・ これまでの様々な体験活動や遊びを思い出し、再現遊びやごっこ遊びを通し、“唐桑のいいところ・宝物”を遊びに取り入れる。